

平成 26 (2014) 年度 相愛中学校・高等学校「学校評価」

1. めざす学校像

相愛学園では、創立 125 周年を機に、「建学の精神」に立ち戻り、改めて学園教育理念を定め、また教育方針を確認。学園教育理念「當相敬愛」を単にスローガンで終わらせず、本校のすべての教育活動の基軸に据え、「自己肯定感」・「関係性の力」をキーワードに、「當相敬愛」を軸にして進化した独自の人間形成教育に努める。教育活動として、現代の時代状況に応じる「新しい学び」として、「学習力」強化・「アウトプット教育」の推進・「国際教育」の充実を 3 本柱とする。

2. 中期的目標

1. 学習力強化

- ・自習室を整備し、生徒が学習に集中できる環境を整える。
- ・シラバスの作成・実施、朝テスト、各種検定、スコラ手帳、自習室の活用等、現在実施している教育活動を継続・深化・系統化させることにより、教育レベルの向上をめざす。

2. アウトプット教育の推進・国際教育の充実

- ・「アウトプット教育」と「国際教育」についてはセットで取り組む
- ・生徒の英語コミュニケーション力の向上を図り、「インプット」面を充実させる。
- ・自らの「意見形成」を行い、発言・行動できる「アウトプット力」を身に付ける。
- ・「宗教行事」・「クラブ活動」を通じ、互いに影響を与え合い、高め合う人間関係形成力を培う。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [2014 年 12 月実施]	学校評価委員会からの意見
○生徒 学校行事関連の項目で全体的に高い満足度が示されている。中でも「1 宗教的行事」が最も高い評価となり、次いで「16 学校行事の充実」「17 クラブ活動の充実」の評価も高く、中学校のみの分析では最も高い評価結果となった。 ○保護者 生徒とほとんどの質問で同一の結果となったが、生徒は「10 問題対応」「11 教員相談」が低めの評価に留まる反面、保護者では高い評価を得ている。 ○教員 学習指導や生活指導分野の項目は、70～80%が肯定的評価。ただし、3 者比較では教員の自己評価ほど生徒・保護者の評価は高くなく、意識差が大きい。差を埋めるべく、具体的な授業への不満等は授業アンケートの実施で明確にするなど視覚化し、より一層の努力が必要。 また、「9 礼儀・服装・協力姿勢育成指導」が高評価な点は、本校の魅力の中でも強調できる点であるといえる。今後も継続して高い評価が得られるよう、教職員一同努めてまいりたい。	「宗教的行事」「学校行事」「クラブ活動の充実」など評価の高い項目のうち特に「宗教的行事」本校の教育の根幹をなすものであり、高評価については価値がある。一方、「学習指導」などで生徒・保護者と教員間の意識差が大きい項目については、意識差を縮めていくことが重要。しかし、選択方式のアンケートでは設問も限られており、マイナス評価の場合、どのような点を不満と感じているかが分からないため、要因の掘り下げを行うことが困難。より具体的な内容を突き止めるため、学習指導や生活指導分野においては、10 月に生徒対象の授業アンケートを実施。アンケート結果は管理職が共有し、教員にも結果を戻すことで改善を図る。本校の良さを継続しつつ、教職員一人一人が「生徒が求める学校像」を模索し、より良い環境作りに尽力する。 かねてより改善要望のあった、図書室・進路指導室および自習室・保健室の移設を年度末に実施。利用者数の増減や利用者の声を参考に、利便性の向上に努める。保健室については移設により車いすの使用が不便となっているので改善が必要である。

3. 本年度の取組み内容および自己評価

中 期 的 目 標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学 習 力 強 化	(1)学力の向上 ア 教育改革の推進 (将来構想委員会)	ア 学校教育改革プロジェクトチームを中心に各種プロジェクトを推進し、女子教育に特化した進化したカリキュラムや教育内容を構築・検討する。	ア 具体的目標の提示とコース変更実施の有無	ア 中高の将来構想最重要懸案事項である魅力ある学校づくりと外部への情報発信を効果的に行うため、学校教育改革プロジェクトチームを中心に各種プロジェクトを推進。この結果、平成 26 年度（平成 27 年度入試）において高校入学者数前年度比 150%につながったと考えている。 今後、中学校の魅力を強めるため、「各教科指導」内容を検証し、「総合的な学習の時間」の再構築も含めて中高カリキュラムの検討を行う。
	イ 高校「普通科専攻選択コース」の設置 (将来構想委員会)	イ 在校生徒や新入生の希望進路実現のため、高校「普通科進学コース」を「普通科専攻選択コース」に変更	イ 生徒・保護者の満足度向上・新入生増	イ 平成 26 年度に高校「普通科進学コース」を「普通科専攻選択コース」に変更。 7 つの専攻（文系・理系・文理系・幼児教育・看護受験・栄養・教養マナー）を高校 2 年次より選択できるカリキュラムの実施。 今後は運営にあたり教職員との連携をさらに充実させる必要がある。
	ウ 「ブラッシュアップ English」と習熟度別授業の継続実施	ウ 高校普通科に「ブラッシュアップ English」、中学に英語・数学の習熟度別授業を実施する	ウ 状況にあった取組・結果	ウ 昨年度同様、高校普通科に「ブラッシュアップ English」、中学に英語・数学の習熟度別授業を実施したことで、生徒の学力レベルに対応した授業を展開し、学力の向上をめざした。 引き続き成績アップに努める。
	エ 全学年への朝テスト、漢字検定・英語検定等、資格取得の継続実施	エ 朝テストを実施。漢字検定・英語検定受験の徹底	エ 生徒・保護者の満足度向上	エ 昨年度同様、1 限目開始前に朝テストを実施、不合格者には放課後に補習・再テスト等を行い、基礎学力の定着をはかる。 資格取得には非常に肯定的で今後も年 1 回以上、漢字検定・英語検定受験の機会を設け、併せて試験合格に向けてのより具体的な取り組みを行う。

	オ e-learning の導入	オ 自学自習のために e-learning を導入	オ 生徒・保護者の満足度・学力向上	オ 平成 24 年度より、基礎学力を強化・自学自習できるツールとして e-learning を導入、一人ひとりに応じた学習に取り組んできた。結果、施設設備も含め、自学自習できる環境を整えた。今後もこのシステムを継続しつつより効果があがる方策を検討・導入する
	カ 補習・講座の充実	カ 定期考査後や長期休暇中の授業と補習の開講	カ 参加者の成績向上並びに学力向上	カ 定期考査後や長期休暇中の授業と補習のあり方について更に検討・改善を続けた結果、特進・進学・音楽科の目標に適した内容を実施した。これらの取り組みにより、学年末に認定考査を受験する生徒が数名程度となり、成績不振による原級留置生徒は皆無となった。
	キ 学習環境の整備	キ 教員室前の質問コーナーの増設、自習室の移設・個別ブースの設置	キ 状況にあわせ取り組む	キ 教員室前の質問コーナーの増設、自習室の移設・個別ブースの設置等をし、生徒各自の学習上の弱点補強をおこない、始業前・放課後にも今まで以上に集中して学習できる環境を整えた。結果、自習室の使用頻度が劇的に向上した。

2 アウトプット教育の推進	(1)進路・キャリア教育 ア 進路指導とキャリア教育の充実	ア 進路指導部・キャリア教育推進部と各学年の連携のもと、全学年での系統的なキャリア教育を推進。	ア 生徒・保護者の満足度向上と合格実績向上	ア 浄土真宗本願寺派宗門校の各大学並びに教育連携協定を結んでいる龍谷大学にて、高校生による一日見学体験実施。さらに相愛大学や京都女子大学への直接的な体験の場面を設定したことにより、自身の将来展望や志望校の合格実績の向上がみられた。
	(2)宗教教育 ア 宗教教育と日々の礼拝の充実	ア 各種宗教行事の参加や充実した心の教育	ア 生徒・保護者の満足度向上と人間力向上	ア 龍谷総合学園が提唱する各種の交流、体験の機会に積極的に参加した。また、毎朝毎夕の教室礼拝指導を改めて見直し、指導の徹底、法要での法話の記録などを行い生徒や教職員の積極的な参加を促すような対策を行った。なお、教職員に対する研修の機会を増やし建学の精神とみ教を今一度共有し、宗教教育を学校全体で取り組む体制をとり、社会全体で倫理観が低下している現状から、なお一層の充実を図る。
	(3)行事の充実 ア 生徒会活動の充実	ア 体育祭の外部大型体育館での開催ならびに文化祭の内容・運営の見直し	ア 生徒・保護者の満足度向上	ア 中央体育館で実施した昨年度の反省点をふまえ、問題点の解決と競技内容の充実を図った。実施について天候に左右されないで非常に評価が高い。従前の文化祭の内容・運営も見直しを図る。全校生徒が関わるモザイクアートの製作、高3生の調理による模擬店運営を行うなど、生徒自身も相互協力により成果を実感できた。
	イ 総合的な学習の充実	イ 総合的な学習の時間のより一層の充実	イ 生徒・保護者の満足度向上	イ 日本の伝統文化にふれる「華道」「茶道」、専門家から個別指導を受けられる「吹奏楽」、また心身の健康と安定をめざす「ヨガ」は希望者も多い。これらを継続し、より一層の充実を図る。

3 国際教育の充実	国際交流プログラム			
	① 修学旅行の海外渡航 ② 国際交流プログラム	①高2 修学旅行 シンガポール ②ハワイ「PBA」での語学 研修プログラム実施 (中3～高3 対象)	①生徒の満足度 が非常に高い ②参加者の満足 度並びに、交流 校の評価向上	①見聞を広げ、語学への興味・関心を高め て国際理解を深めるため、国内の高校修学 旅行をシンガポールで行った結果、国際教 育の充実を図れた。 ②本校と Pacific Buddhist Academy (以 下、「PBA」) との間における交流に関する協 定書に基づき本校と建学の精神を共にす る、ハワイ PBA での語学研修を10 日間夏期 に実施。ホームステイや PBA の生徒との交 流・異文化体験を通し国際感覚を磨く機会 を設けた。加えてそれを更に発展させたも のとして、1 ヶ月間 PBA の通常授業で学習す る研修を実施。参加生徒達は英語の習得に 関心があり、教員も理解が深まっている。 平成 27 年度は夏期に10 日間および6 週間 の研修、冬期に高3 生を対象に6 週間の研 修を実施する。 また、中3 生を対象とするニュージーラン ド語学研修の企画を検討。